

# 「出会い」から「交流」へ

「いちのせき高校生チャレンジフェスタ2007」を成功のうちに終えた実行委員の中から、和賀彩佳さん、菊池冴子さん、佐藤和泉さん、佐藤裕太郎君、菅原美郷君の5人の高校生が、取り組みの成果や感想、そして若い世代から見た地域づくりへの思いなどを浅井市長と語り合いました。(7月31日、室根高原牧場「まきばのレストラン」にて)

## 地域の元気と出合いをテーマに

浅井市長 皆さん、「高校生チャレンジフェスタ」、大変ご苦労さまでした。私は「よくやった」というのが第一印象。去年も雨に負けず元気に頑張っていました。今年は天気も良く、去年よりはるかに充実して、参加してくれた人も多かった。みんながやる気になっていたと思います。

今日は皆さんがフェスタでどんな感想を持ち、これからどうしていきたいかなど、いろいろなことを、命が洗われるような素晴らしい風景の、ここ室根高原牧場で一緒に話し合いたいと思ってきました。よろしくお願います。

まず、フェスタ開催の狙いなどから話してもらえますか。

和賀彩佳さん 狙いは二つあります。一つ目は高校生が中心となって地域を元気にしたいということ。二つ目は地域と高校生と商業との大交流会による「出合い」を目的としました。

佐藤和泉さん 今回のフェスタのテーマを「出合い」としたとおり、いろいろなことに出会えたかった。高校生

した。

佐藤和 初めてだったので、どうなるのかという不安が今までに感じたことのないぐらいありました。

市長 皆さんは学校でいろいろなことを習っているわけだけれど、実際やってみるとまた違うでしょ、楽しさが出てくるよね。お家の人は何か言っていましたか？

和賀 「実行委員長をよくやれたなあ」と言ってもらえました。

佐藤裕 「二人でよくやってきたな」と言われました。

佐藤和 楽しかったし、親も来て「高校生がこんなに大きいものをつくってすごいな」と言ってくれました。

## 反省を生かしてより良いものを

市長 準備がいろいろ大変だったでしょう。その辺の苦労はどうですか？

佐藤和 準備の過程で、みんなの気持

同士なら別の機会でも交流できるので、お店を呼ぶことで大人と交流でき、そこでも新たな出合いが見つけたと思います。

市長 参加した皆さんは、どうして一緒にやってみようと思ったの？

菅原美郷君 去年も参加しましたが、千厩高校は自分たちのクラスだけだったので、今年はいろいろな人呼び掛けて楽しみたいと思いました。

佐藤裕太郎君 初めてのことで、やってみるといろいろな経験ができるのでは、と思い参加しました。

菊池冴子さん 地域おこしもありますが、自分のためにいろいろなイベントに参加したいし、積極的になりたかったので参加しました。

佐藤和 やはり、地域おこしに参加したかったので参加しました。

市長 やってみてどうでしたか。

佐藤和 全体的に忙しかったり大変なこと多かったのですが、お客さんの笑顔を見ると自分もうれしくなる



大東高等学校2年 和賀彩佳さん

和賀彩佳さん

「みんなが支えてくれたから、実行委員長を最後までやり遂げられました」

ちを一つにまとめることと、すべてのことが初めてだったので何をしていたのか分からずに取り掛かりが遅かったので苦労しました。

菊池 やはり個人個人意見が違うので、それをまとめるのが大変でした。

市長 そうですか。考え方はみんな違うからね。でもあれだけの大きな出店から何からたくさんあったのによく準備しましたね。よくやったと思いますよ。

ので、また機会があったら参加したいなと思いました。

市長 大人たちとやることも勉強、自分たちでやるのもまた勉強ですね。自分たちでやることはやっていく、これもいいことだね。去年より参加した高校が増えましたね。

菅原 去年は一関工業高校と大東高校、千厩高校です。

市長 今年はそれに一高が加わった。そうやってどんどん輪が広がっていくといいんだよね。お客さんの呼び込みとかはやりましたか？

菅原 会場で広告を配ったりし、けっこう多くの人がもってきてくれました。菊池 かき水を作っていて、お子さん連れのほうが売れることがわかったので、親子連れが近くにきたら「かき水いりませんか」と声を掛けるようにしました。

和賀 本部署を通る人に、アンケートに答えれば抽選ができるということを声掛けしました。

佐藤和 当日以外にもポスターやテレビ出演などでたくさん呼び掛けをしました。

市長 やっぱ自分で呼び込んでお

佐藤和 良かった点と課題点が自分たちでそれぞれ見つけられました。またやりたいので、その機会に今回出た課題を改善していきたいと思っています。

市長 だんだん良いものにしていきたいですね。

当日はさまざまなイベントも行われましたね。そのことについてはどうですか？

菊池 大東高校の鹿踊りや藤沢高校のよさこいソーラン、みちのくプロレスなどさまざまなイベントで盛り上げていただきました。その人たちとも交流ができたと思います。

市長 もう少しこういうのをやればよかったとか、こうあればよかった、といった反省点はありましたか？

菊池 接待で、相手の方がいらしたときに気が付かずいたりしたことがあったらいいので、そこを直せばと思います。

菅原 今回のフェスタはやはり規模



店に入ってもらったり買ってもらったりするとうれしいでしょ。商売、仕事は、自分の真心を訴えるということ。これをぜひ買ってください」「おいしいですよ。それに応えてくれる人がいると非常にうれしいんだよね。こうしたことは今までに体験のないことだと思えますが、どうでしたか？

菊池 ドキドキして不安も同じくらいありました。

和賀 不安もあったけれど頑張りま

が大きかった分、人手もいっぱい必要だったのですが、事業を起すというか、主催者である高校生たちが出店とかをやったほうが良かったと思います。

市長 人に頼まないで自分たちでということ？

菅原 材料なら材料を受け取って調理したり、業者さんから受け取ったものを売ってみたりすることをやってみても面白いんじゃないかと思いま

大東高等学校2年 菊池冴子さん



「積極的に行動する気持ちを忘れずに成長していけたらいいなと思います」



昨年に続き2度目の出店  
一関ミート 石川聖浩さん(40)

「このフェスタは手づくりの感じがあっていいですね。会場の既存の施設をうまく活用し、イベントの企画など集客にも工夫が見られて、昨年からの成長を感じます。

物産業者として参加した私たちも含め、子どもたちを育てるという意味で、周りの大人がいい方向に導いてやれればと思います。

高校生には、大人とのつきあい方を学んだり、地域を見つめ直したりするいい機会。この経験を、何年かして自分が社会に出て行くときの糧にしてもらいたいですね」

## ささえた人 たちから



生徒たちの指導に携わった  
大東高商業研究部顧問 川原佳訓教諭(30)

「昨年の『にぎわいど市』参加がチャレンジフェスタ開催のきっかけになりました。

2回目の今年は、昨年の反省も踏まえて準備、運営に当たりました。地域の人たちの協力もいただき、生徒たちにとって大変やりがいのある事業に取り組んだと感じています。

多くのお客さんの積極的な参加に支えられて目に見える成果が実現でき、生徒たちは達成感を得ました。生徒たちには、学校の中だけでなく、さまざまな人との出会いの下、地域の人たちと一緒に活動する経験を通じて成長して欲しいと思っています」